

## 株式会社光栄プロテック (大阪府)

### 職人集団から塗装企業へ

現場でサッシの塗装を行う職人仕事で創業したが、間もなく工場で塗装仕上げを行う業態にシフト。高い職人技術を背景にした施工が功を奏し、様々な業種との付き合いが始まる。創業当時は1社だけだった得意先が現在では300社ほどに。国内全域が商圏となり、有名建築物の塗装も請け負っている。

# INTERVIEW

## 建築の高級意匠を汎用材製品に表現

重要文化財に指定されるような建造物、高級宿泊施設や美術館などの門扉や窓枠などで使用されることのある「真鍮円弧模様硫化いぶし」という建築意匠がある。落ち着いた色味で重厚感があり、建物の意匠性を高めてくれる。真鍮を使用するため、ステンレスやスチールに比べ高価であり、現場によっては使用を諦めるケースもあった。同社の技術は、予算によって意匠を妥協していた現場に、ひとつの解決法を示すものだった。これまで真鍮にしかできなかった硫化いぶし加工を、ステンレスやスチールで再現する高度な技術で実績を積み重ねている。

Q 関西ものづくり新撰に応募しようと思ったきっかけは

## ブランディングの一環として取り組みました

当社の技術が評価され、お付き合いする業界が広がる中で「企業のブランディング」を考えるようになりました。これまで縁の下での力持ちで社名が表に出ることはなかったのですが、価格競争力を生むためには技術力の高い会社として認知してもらう必要があります。そこで「ものづくり日本大賞」に応募しようと思い、近畿経済産業局に電話した時に教えてもらったのが「関西ものづくり新撰」です。選定された時は、社員のモチベーションも高まり、仕事と会

社に誇りを持ってもらうことが大切だと感じました。ブランディングは、社外に行うだけではなく、社内に対しても必要であり、入社したいと感じる会社を目指すことが大切だと気づいたのもこの頃です。見本市に出るなど、対外的な発信に取り組むと同時に社員と生産性向上の勉強をし、残業時間を減らすなど働きやすい職場としてのブランディングにも力を入れています。「ものづくり日本大賞」には手が届きませんでした。ぜひまたチャレンジしたいですね。

Q この技術は御社のブランディングにどのように役立っていますか

## 技術力のある塗装会社

取引をする業界や得意先が広がっていくと、難しいこともお願いされることがあります。「真鍮円弧硫化いぶし」の見本を見せられて「予算がないから鉄でこの意匠を再現して欲しい」と言われたとき、先代の社長に相談しても「できない」との回答でした。しかし、「これはチャンスだ」と思い、職人と一緒になってこっそりと開発したのが「硫化いぶし色仕上げ」です。一番難しかったのは塗料を定着させることでした。意匠は再現できるのですが、ステンレスやスチール

インタビュー



代表取締役社長 三田 雅憲氏  
営業部 道下 雅勝氏  
※左から道下氏、三田氏

ブランディングの大切さを語る  
三田氏

に塗装をしても簡単に剥がれてしまうのです。製品として満足するまでに半年ほどかかり、依頼があった物件には間に合わなかったのですが、別件で名古屋の建物での採用が決まりました。名古屋に行ったら必ず見に行きますが、7年ほど経った今でも綺麗なままで、耐久性の証明になっていると考えています。銅や真鍮以外では再現できない、と言われている塗装を実現しているので、業界では、「技術力のある塗装会社」というブランディングで認知が広がっていると思います。最近では、設計図の仕様に当社の技術が記載されるケースも出てきました。

Q 今後の展望をお聞かせください

## 自分たちで開発した塗装を提案していきたい

建築では実績が重要です。これまでに有名な物件で採用されているので、この意匠を施工する場合は当社には大きなアドバンテージがあります。類似の塗装も出てきていますが、仕上がりに違いを感じ、当社を選んでいただいています。これも、無理難題に向き合いながら技術を磨いてきたからこそです。今後は開発部を作って自ら開発して提案できるようになりたいですね。技術の承継

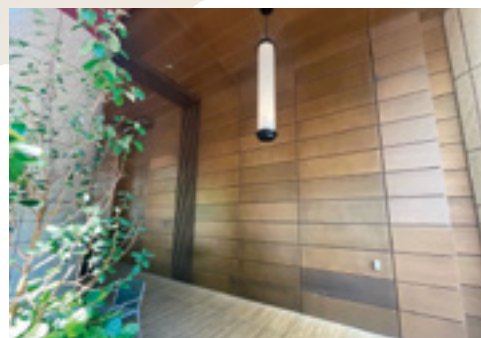
と発展のため、新卒採用にも取り組んでいます。自分で表現できる術を持っている芸術大学の卒業生が入社してくれています。また、塗装を科学的に評価分析ができるようになれば、データを揃え技術をロジカルに伝えられるので、地元自治体の産学連携の取組にも参加しています。今は創業50年ですが、まずは100年企業になりたいですね。

# PRODUCT

新市場創出

対象製品選定年 2016年

## 建築意匠向けステンレス・スチール・アルミ製品の「(バイブレーション) 円弧模様硫化いぶし表面処理塗装」技術



銅合金（真鍮等）製品に施される乾式の「硫化いぶし仕上げ」をスチールやSUS製品に塗装工法で銅合金皮膜を形成し、その表面に再現するものです。銅合金は柔らかい金属であり、塗装での銅合金被膜も柔らかく、薄いため機械研磨は難しいです。しかし、機械研磨しなければ円弧模様を表現できず、硫化の色調整も塗膜が剥がれます。これらの難題を解決し「硫化いぶし」をスチール製品に再現しています。

### 支援機関からの推薦コメント

光栄プロテックは高度な職人技で、真鍮等でしか実現できなかった「硫化いぶし仕上げ」を安価なスチールやアルミでも表現を可能にし、重厚で色彩感ある意匠性の高い塗装の可能性を大きく広げました。

### 支援機関情報

北大阪商工会議所  
大阪府枚方市車塚1丁目1番1号 輝きプラザ6階  
枚方市立地域活性化支援センター内  
tel : 072-843-5151  
https://kocci.or.jp

### 会社情報



株式会社光栄プロテック  
代表取締役社長：三田 雅憲

大阪府枚方市春日野2丁目2-12  
tel : 072-859-1365 fax : 072-859-3023  
https://koeip.co.jp/

企業 HP

